

# 寸 脇

THE GIFU UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

創刊号 1990.6

## 目 次

図書館報発刊にあたって(大谷 熱)	1
附属図書館の現状とサービス(森 一雄)	2
一冊の古書「目録」から(梶山雅史)	3
教官推薦図書 “地球汚染”に寄せて(小川利彦)	5
現代の病理学(田中卓二)	5
附属図書館統計	6
図書館関係会議 など	7
図書館員からの一言 稲垣 晴美	8
小林かず子	8
お知らせ	8

## 図書館報発刊にあたって

## 大 谷 熱

歴代の館長、事務長及び職員各位のこれまでのご尽力と、大学を構成し図書館を支える各学部等の総意に基づいて、このたび、館報「寸脇」が発刊されましたことを利用者各位と共に大きな喜びとしたい。

発刊に際して委員会で協議された発行要領によれば、この館報は、「岐阜大学附属図書館の機能及び活動を利用者に広報するとともに、広く学内外の図書館事情を紹介し、利用者と図書館職員とのコミュニケーションの確立を図ることにより、図書館業務の円滑化とサービスの充実発展に資することを目的として発行する。」とあります。

かかる趣旨からすれば、諸事情があったこととはいえ、これまで刊行されていなかったことが不思議なくらいであります。他大学図書館の情況と比較して、いまそれを言ってみても仕方のないことで、素直に発刊を喜び、趣旨に沿った、利用者各位に愛される館報に育ってくれることを願うの

みであります。

「一つの大学を訪問する時に、その大学の学術レベルを判断するには、大学の図書館を見るのが良い。」と言われます。つまり、大学の図書館は、大学の顔であり、図書館の整備は、大学の活性度を反映しているものと言えましょう。我が岐阜大学附属図書館の整備・運営の状況は、はたして、国又は世界のレベルからみてどの様に位置づけることができるでありますか。

大学図書館の使命については、それが学修図書館であると同時に、学問研究へのより的確かつ迅速な資料の提供とその保存に第一の使命を持つものである以上、これは大学を構成する一人一人がその使命達成のために、なにを成すべきか考えなければならないことであります。図書館は与えられてそこにあるから利用するのは当然の権利であります。しかし、その図書館を支えている者は誰か、特に大学に職を置く研究者としての教官は

義務として考えなければならないところでありましょう。

学術情報量の増大と質的多様化、情報提供形態の変化等、それらを踏まえた新しい大学図書館への脱皮など、今日、図書館が対応を迫られている

問題は山積みしております。それらのひとつひとつを利用者各位と共に解決していくために、館報は、効果的な図書館利用のための道標としてその機能を果たすことを希うものです。

(おおや いさお：附属図書館長)

### — 誌名「寸胴」とは …… —

当附属図書館のロビー正面に「寸胴譜」と名付けられた大きな陶壁がある。この寸胴とは陶器を作るときロクロの上で最初にできるツボのようなものをいう。花瓶、茶碗、皿など、いずれにしてもその親型となるのが、姿はよくないがこの寸胴

であり、作者以外の目に止まることはないが、陶器の原点である。換言すれば、この寸胴の果たす役目こそが、学生、研究者にとっての大学図書館の果たす使命であると位置付けることができよう。誌名の「寸胴」はこれに因る。

## 附属図書館の現状とサービス

森 一雄

岐阜大学の統合に伴う附属図書館の基本方針を統合ニュースから再掲します。

- ①統合地に中央図書館を設ける。医学部分館は存続させ、統合時における図書館構想の一環として、その充実をはかる。
- ②中央図書館は学习、研究、保存図書館としての諸機能を兼ねたものとする。
- ③利用者に親しみやすい図書館とし、勉学、研究の場としての環境を整備する。
- ④全学の図書は、できる限り集中的に管理し、資料の効率的利用が可能となるようにする。
- ⑤迅速、的確な奉仕活動のため、また、業務の円滑化のため、機械化・システム化をはかる。
- ⑥開館時間の延長、夜間開館を考慮し、利用者の便をはかる。
- ⑦将来の発展を踏まえ、拡張性をもった図書館とする。

これらの基本方針に基づいて、本館が昭和57年3月、医学部分館が昭和56年3月にそれぞれ竣工されました。

方針の一つの柱となりました資料の集中的な保管については、幸いにして全学的な合意が得られ、各学科・研究室等に分散配置されていました多数の国内外学術雑誌が集中化され、有効に利用され

ています。

平成2年度における集中化率は次の通りです。

	受入種類数	図書館 配架種類数	集中化率
本館 和雑誌	2,208種	1,853種	83.92%
本館 洋雑誌	1,307種	850種	65.08%
分館 和雑誌	543種	447種	82.32%
分館 洋雑誌	726種	581種	80.03%

このような研究者の協力による集中化に対する図書館の対応として、雑誌オンライン閲覧目録(雑誌OPAC)の早期開始を計画しています。

本館では、年々増加する資料の保管等に対応できる施設の適正規模を確保するため、書庫等の増築を計画し、中央図書館の機能充実に努めています。

一方、資料の電子化に対応し、分館では司地区の協力のもとに、今夏より MEDLINE on CD-ROM を導入し、文献情報サービスを開始する計画を立てています。

(もり かずお：図書館専門員)

## 一冊の古書「目録」から

梶山雅史

郵送されてきた古書籍掘出し市のカタログを繰っていた。「岐阜県華陽学校附属書籍館書籍目録及規約」(和紙刷 47丁 明治16年 15,000円)。細身の活字の一行が、一瞬、盛り上がって見えた。岐阜大学教育学部の前身、華陽学校の書籍館蔵書目録及規約であった。1880年(明治13)9月から1886年(明治19)4月に至るわずかの期間、岐阜県師範学校は、岐阜県第一中学校さらに岐阜県農学校を合併して、このように称した一時期があった。岐阜県下の教育史資料としては、久しぶりの出物である。これはやはり手にいれねばなるまいと決意した。

ご存知のとおり、古書市には、それなりの仁義、「会場来客優先」の鉄則がある。カタログに掲げた何千件の古書に対して、さまざまな顧客からの注文が寄せられる。しかし、注文に応じ得るのは、初日、会場に足を運んだ先客の買い上げが済んでからのことである。初日終了後、幸いにも残っていれば、その古書が確保される。注文が重なれば、業者間の抽選という事になっている。通信注文で狙いの古書が手に入ることは、まことに希である。世には、目利きが多いものと、嘆息することしきりということになる。古書獲得には、やはり足を運ぶ他はない。

古書市初日の殺氣だった会場風景。そこには特異な情念、執念が赤裸々に激しく噴出する。過ぎ去った時間をとどめる幾許かの断簡、紙片、図書、図像をもとめて、せわしく老若男女がせめぎあう。いかなる証しを求めてか、いかなる志につき動かされてか、熱気が会場にむんむん立ち込める。なに食わぬ顔つきで振る舞い接する日常生活のその奥に、それぞれが培っている知的好奇心がなんと激しいものか、なんと多様なものであるか、そして、もの言わぬ一人一人の内面の世界が、いかに巨大で色鮮やかなものであることか。お互いの変癖、あるいは底無しの収集趣味といった毒気にあ

てられつつ、この時、ひたむきな内面世界が一挙に会場に露呈する。この瞬間は、いつ立ち会っても、スリリングで刺激的である。

百貨店の催し場で開催される古書市について、京都の親しい古書店主がおもしろい話をしてくれた。10時開場とともに、階下から、エレベーター、エスカレーター、そして階段に殺到する足音が響き、地の底から津波のように一団の人群これが闘の声をあげて駆け上がっててくる。まず、エレベーターの第一陣が会場に飛び込んでくる。やや遅れてエスカレーターを息急き切って駆け上がっててきた人波が、そしてまた脚力と肺活量にまかせ、階段を二段飛びに駆け上がってきた人波が、次々と参入する。会場はさながら戦場となる。そしてあっという間に、会場は平静になる。めぼしいものの獲得競争は、津波の第一波で、早々とけりがついてしまうのだと。

1986年2月、岐阜のK百貨店7階催し場、恒例の古書籍掘出し市。1階入り口最前列に運動靴で密着した。岐阜の地においても、刻々にドアに向かって、人垣が押し寄せる。まさにじりじりと、踵を接し、靴と靴が触れ合うまでに、足場は狭められ、開館とともに、脱兎のごとく飛び込むこととなった。かろうじてエレベーター第一陣にもぐりこみ、カタログに記されていた陳列区画に駆け入った。戦術効を奏して、ともあれ「岐阜県華陽学校附属書籍館書籍目録及規約」を手にし得たというわけであった。

購入した資料は、縦18.5cm、横13cm、厚さ0.6cm、ほぼB6判の大きさである。和紙袋綴、47丁、古書店がホッキスで綴じた表紙なしのほんの小さな冊子であったが、1頁10行組、鉛活字によって鮮明に印刷された、極めて傷みの少ない書籍目録であった。

1883年(明治16)4月25日、岐阜県令小崎利準名で布達が出されており、「岐阜県華陽学校附

「属書籍館規則」は、「第一條 図書ヲ求覧スル者ハ本県管内ノ者ニシテ此規則ニヨルトキハ何人ニ限ラス登館シテ適意ノ図書ヲ展スルコトヲ得」と、図書閲覧を一般に広く開放していた。

「岐阜県華陽学校附属書籍館書籍目録」には、漢籍之部75部、国書之部191部、百科全書61部、算術書68部、翻訳書之部163部、洋書之部210部、計768部の書名、冊数、著訳者氏名が掲載されていた。

藩校の書庫から受け継いだ和漢書や洋書、文明開化期の種々の啓蒙書、そして文部省あるいは民間書肆が編纂した教科書、教育書、辞書類、さらに数学、化学、物理、生物、農学、薬学、生理学等々、新時代の科学技術分野の専門書、参考書が名を連ねていた。ここにとり揃えられた図書の種類、構成、それは、まさに当時の岐阜の地における知の先端的状況、新旧知識の配置を如実に示すものであった。本附属図書館の歴史、本大学の歴史をたどる際、きわめて初期段階の姿を知る上で、これは不可欠のまことに貴重な資料といえる。

この「書籍目録」に記された書物がどの程度本館に現存するか、その照合作業をとり急ぎ組織的に進めてみるべきであろう。かつて故中西忠敬元大垣市立図書館司書が明らかにされたごとく、本館の特別資料室に収蔵されている『春秋左氏傳校本』、『冊府元龜』、『大日本史』、『日本政記』は、まさに「書籍目録」に記されている当該の漢籍、史書であり、「大垣文庫」あるいは「敬教堂蔵書」の蔵書印が押されている。また『康熙字典』には、「大垣文庫」、「岐阜県師範学校蔵書」、「岐阜大学学芸学部之印」の蔵書印が次々と押されており、所蔵機関名の変遷を物語っている。

『中部図書館学会誌』に「岐阜県図書館史」を連載中の元岐阜県図書館資料課長小川トキ子氏は、旧大垣藩校（敬教堂）蔵書は、1883年（明治16）に華陽学校師範部に移転し、「このとき移転された書籍群は、同年創設された華陽学校附属書籍館の基幹図書となった」と推測しておられ、精力的に調査を進めておられる。本館の古い和漢書の蔵書印にスポットをあて、さらに高富藩教倫学校、加納藩憲章館、岐阜教倫館といった機関からの可能性をも射程に入れて、本館貴重書の書誌学

的検討が、本館スタッフの手によってはじめられてもよいのではあるまい。

また、翻訳書之部の一つの事例に言及しておこう。「書籍目録」に記載されている『威氏修身訓』上下2冊、これはアメリカの倫理学者ウェイランド（Francis Wayland）の著作を、1878、9年（明治11、12）に大井謙吉訳で文部省が刊行したものであるが、1880年（明治13）9月、文部省地方学務局通牒により、「書中小学校教科書トシテ不妥当之條項有之」書として使用禁止となつた興味深い書物の一つである。岐阜県華陽学校附属書籍館が、1883年4月段階、この書を一般利用書としていたことも、また種々の興味をかきたててくれる。文部省の教科書統制の開始期における地方師範学校の有様、附属書籍館の機能について、あらためてその実態に照明をあててみたくなる。

この「書籍目録」を頼りに、丹念に集密書庫の探索を試みるや、「岐阜県華陽学校蔵書」印が押された当の現物のみならず、多くの類書が未整理のまま、ある書棚に紛れこんでいる現実に突き当たる。本学統合移転の大仕事のなかで、なお取りのこされた残務の象徴的な一風景である。

学会誌の最新情報を追いかける理工系学部が多数を占める本大学の構成が生み出したひとつの精神風土であろうか。「古い文献は無価値である」とする文献觀の支配とでも形容すればいいのであろうか。集密書庫がもつ文化的意味への極度の無関心がもたらしている集密書庫の未整備、その現状をそろそろ本気で問題にしてみる時期にきているのではあるまい。

最後にひとつ希望をのべてみよう。「岐阜県華陽学校附属書籍館書籍目録及規則」、この小冊子に登場する書名の一つ一つが、實に多くを語りかけてくれる。それぞれの書が織り成した物語を、わいわい、好みにまかせ、山田風太郎風に、司馬遼太郎風に、あるいは井上ひさし風に、この地にひきよせて、まずは勝手ほうだいに読み解いてみる愉快な場でも生まれぬものであろうか。放談が弾むに従い、集密書庫がまたとない探索の宝庫となるに違いない。

（かじやま まさふみ：教育学部教授）

## 教官推薦図書

教官から、その専門分野を専攻しようとする学生に先ず薦めたい入門書・基本図書、あるいは、より多くの教官・学生に教養書として是非一読を薦めたい専門図書を紹介していただいている。

### “地球汚染”に寄せて

小川利彦

新聞やテレビ等で、地球的規模の環境破壊が進行しつつあり、それへの対策が重要課題であると警告しています。そのような恐ろしいことがほんとうに起こるのだろうか、と皆さんも関心を抱いておられることと思います。

こうした時期ですので、少し専門分野を広げた立場から、下記の本を推薦させて頂きます。(1)と(2)の本は、専門用語を殆ど用いないで、環境破壊の本質や実態を解説しています。したがって、どの学部の皆さんにも読んで頂けるかと思います。

(1)「地球は復讐する」

フレッド・ピアス著、平澤正夫ら訳、草思社、265 pp. 1600円

地球の温暖化について、科学ジャーナリストにより広い視野から記された啓蒙書です。

(2)「恐るべき酸性雨」

谷山鉄郎著、合同出版、143 pp. 1350円

酸性雨の発生機構や生態系への影響例が易しく記されています。電車のなかでも十分読める本です。

(3)「地球大気の歴史—その進化と未来を探る—」

フディコラ著、内嶋善兵衛訳、朝倉書店、198 pp. 3500円

地球の大気組成(二酸化炭素、酸素)が地球の歴史のなかでどのように変わってきたか、また、その人為的変化は生物圏にどのように影響するか等について記された専門書です。地球環境に係わる研究者にとって有用な書と言えましょう。

(おがわ としひこ：工学部教授)

### 現代の病理学

田中卓二

現代医学は急速に進歩した分子生物学・遺伝子工学などの関連科学の先端技術と細分化した医学とのドッキングが大きな特徴となっている。病理学は疾病の発症機構の解明を目的とする学問であるが、この分野でも組織・細胞レベルから、蛋白・核酸さらに分子病理学へと発展しつつある。このような状況下で病理学の推薦専門図書として、以下のような基本的なものから最先端のもの三冊を挙げたい。

(1) Anderson's Pathology (9th Ed., Kisaane JM, Mosby Co)：病理学の伝統的な教科書であるが、病気発生のメカニズムが詳細に記載され、本邦では馴染みの薄いエイズ・免疫病理・移植病理などの新知見も含まれている。内容は理解しやすく、学生・医師(臨床各科)ともに読みやすい。

(2)新細胞病理学—小器官病理学から分子病理学へ—(森道夫、南山堂)：教科書ではないが、癌を含む病気のメカニズムについて新知見の発見に至るエピソードなど教科書ないものが含まれ、同時に研究者としての philosophy が散りばめられている。気軽に読める本であるが内容は濃い。

(3)がん遺伝子の分子生物学(藤永 恵、講談社)：1980年代に人腫瘍から癌遺伝子が単離・固定されて以来、癌の基礎研究は急速に進歩している。現在、細胞の癌化に複数の癌遺伝子機能の関与が指摘されているが、本書は癌遺伝子研究の現状と相互の関連を簡潔にまとめている。かなり専門的な内容であり、手元に入門書を必要とするが研究方法を含めて現在の癌遺伝子研究の全貌を知ることができる。

(たなか たくじ：医学部講師)

## 附 屬 図 書 館 統 計

平成2年3月31日現在

## 蔵 書 冊 数

	本 館	分 館	計
和 書	409, 354冊	57, 816冊	467, 170冊
洋 書	167, 757	58, 091	225, 848
計	577, 111	115, 907	693, 018

## 館 外 貸 出 冊 数

	本 館	分 館	計
教 職 員	1, 844冊	5, 217冊	7, 061冊
学 生	35, 507	4, 620	40, 127
学 外 者	941	—	941
計	38, 292	9, 837	48, 129

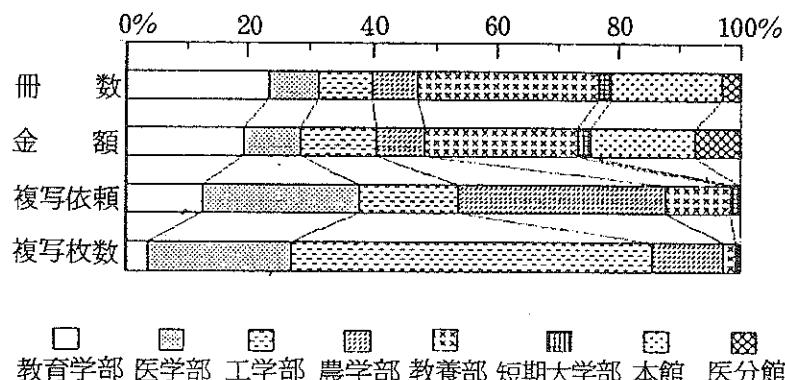
## 年間図書受入冊数・年間雑誌受入種類数

	本 館	分 館	計
図 書	和 13, 261冊	2, 170 冊	15, 431冊
	洋 5, 699	2, 156	7, 855
	計 18, 960	4, 326	23, 286
雑 誌	和 2, 174種	540 種	2, 714種
	洋 1, 293	708	2, 001
	計 3, 467	1, 248	4, 715

## 図書館間相互協力・情報検索

	本 館	分 館	計
相 互 貸 借	貸出 19冊	1冊	20冊
	借用 73	14	87
文 献 複 写	受付 1, 693件	2, 901件	4, 594件
	依頼 3, 903	1, 403	5, 306
情 報 検 索	182件	103件	285件

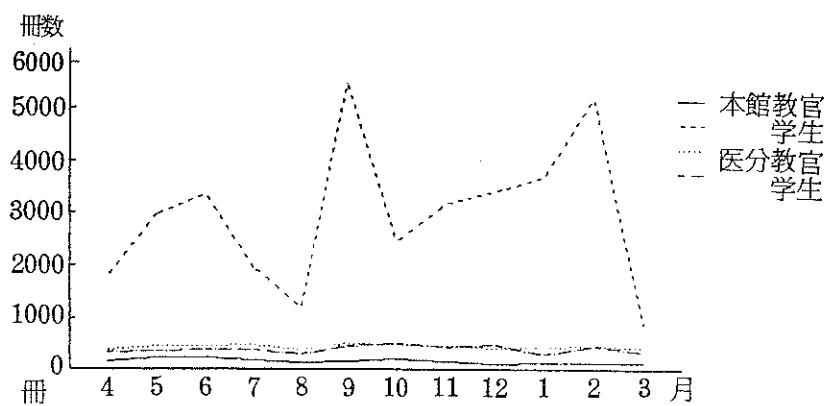
## 学部別図書購入・文献複写依頼比率



図書購入冊数、金額及び複写依頼件数（学外及び本館↔分館への依頼）、複写枚数（学内での複写）を学部別にグラフにしました。

これを見ますと、各学部の特色がよくあらわれています。

## 貸出冊数月間推移



図書の貸出冊数を教官（含職員）・学生別にみてみました。閲覧・入館者等図書館利用の動向もこの貸出冊数により推察できるかと思われます。

試験期にあたる9月と1～2月の利用は多いが、夏季休業中、春季休業中の利用はぐっと少なく、この時期の利用の喚起も促したい。

## 平成 2 年度附属図書館関係委員会委員

	附属図書館 委員会委員	資料選定 委員会委員	館報編集 委員会委員	図書・紀要編集 委員会委員 (医学部分館)
館長	大谷 真	大谷 真	大谷 真	岡 伸光
医学部分館長	岡 伸光	岡 伸光		江 崎 孝行
教育学部	合田 昭二	合田 昭二	尾崎 浩巳	若林 慎一郎
	尾崎 浩巳			土肥 修司
医学部	若林 慎一郎	若林 慎一郎	田中 卓二	田中 卓二
	田中 卓二			井奈波 良一
工学部	小川 利彦	田中 祐一郎	小川 利彦	棚橋 德重
	田中 祐一郎			安藤 隆
農学部	秋元 浩一	田中 桂一		山本 啓之
	田中 桂一			鷹津 久登
教養部	吉崎 範夫	富樫 幸一		杉山 保幸
	富樫 幸一			出 口 一樹
工業短期大学部	永田 拓	永田 拓		
附属図書館		河田 幸男	河田 幸男	
		森 一雄	小林 かず子	
		中齋 二三博	羽賀 啓子	
		村上 喜廣		

## 人事異動 平成 2 年 1 月 - 4 月 ( ) 内は旧

- |                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| 3.31 大野恵巳子 定年退職          | 4. 1 上口正昭 整理第二係(医学部分館図書係) |
| 藤谷晴美 退職                  | 黒柳裕子 閲覧係(採用)              |
| 4. 1 中村楨吾 教養部事務長(図書館事務長) | 丹羽恵利子 閲覧係(採用)             |
| 河田幸男 事務長(主計課課長補佐)        | 山田洋子 参考調査係(整理第二係)         |
| 森 一雄 専門員(兼医学部分館図書係長)     | 宮崎直昭 医学部分館図書係(閲覧係)        |
| 安田眞由美 人事課職員係(総務係)        | 宮野千都 医学部分館図書係(参考調査係)      |
| 澤田聰子 総務係(庶務課庶務係)         |                           |

## 図書館関係会議(学内) 平成 2 年 1 月 - 4 月

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 1. 10 第 6 回図書・紀要編集委員会  | 3. 6 第 54 回附属図書館委員会  |
| 2. 2 第 53 回附属図書館委員会    | 3. 7 第 8 回図書・紀要編集委員会 |
| 2. 2 第 3 回附属図書館資料選定委員会 | 4. 4 第 1 回図書・紀要編集委員会 |
| 2.13 第 7 回図書・紀要編集委員会   | 4. 25 第 55 回附属図書館委員会 |

## 図書館関係会議・出張・研修(学外) 平成 2 年 1 月 - 4 月

- |   |  |
|---|--|
| 1. 31 東海地区大学図書館協議会講習会<br>平成元年度第 2 回<br>(於 名古屋大学 中齋, 村上, 長屋) | 2. 25 平成元年度目録システム講習会<br>-2.28 (於 学術情報センター 内海)  |
| 1. 25 医学図書館協会研修会  | 4. 23 東海地区国立大学図書館協議会<br>(於 名古屋工業大学 館長, 事務長)    |
| -1.26 (於 日本生命中之島研修所 上口)                                     | 4. 24 平成 2 年度東海地区医学図書館協議会<br>(於 愛知学院大学 分館長, 森) |

## 図書館員から一言

### 稻垣 晴美

医分館で相互利用を担当している稻垣です。早いもので、医分館に来てから丸一年が過ぎました。当初は救急車のサイレンと実験動物の鳴き声にビクビクする毎日でしたが、それらの環境と講座回りに、やっと慣れたかナーという今日この頃です。

まだまだ若葉マーク取れたての未熟者ですが、先生方や学生さんの研究に、少しでもお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願ひいたします。  
(いながき はるみ)



### 小林 かず子

今日では、一次的な源情報は、図書よりも雑誌に発表、紹介、批評されることが多い。したがって、大学図書館にとっては、学術雑誌は極めて重要な図書館資料である。本学の資料費のうちに占める雑誌購入費の割合は、50%を超えており、研究者にとって欠くことのできない資料であり、その選定にあつては十分な検討が望まれる。図書とは違った雑誌の特殊性を考慮し、細心の注意を払い雑誌の整理に当りたいと思う。  
(こばやし かずこ)



## お 知 ら せ

- 平成3年度購入雑誌について  
平成3年度に購入する国内雑誌及び外国雑誌のアンケートを9月に行います。あらかじめ御検討くださるようお願いいたします。
- コンテンツ・サービス希望誌の変更について  
上記アンケート時にコンテンツ・サービスの変更を受けます。
- 学生用図書推薦のお願い(教官)  
例年のように学生用図書の推薦を7月末までにお願いしますので、ご準備ください。

## お 知 ら せ

- 購入希望図書について(学生)  
「ぜひ図書館に備付けてほしい」と望まれる図書を予算の範囲内で購入いたします。備付けの「購入希望図書」用紙に記入のうえ、お申込みください。
- 文献複写料金の改正  
4月1日より文献複写料金が下記のように改正されました。

学内者 40円から 20円に

学外者 50円から 35円に

## 休館日のご案内

次のように臨時の休館日を予定しています。

- 毎月第二火曜日
- 夏季休業中の図書整理期間  
 附属図書館 8月6日(月)～8月14日(火)  
 医学部分館 8月14日(火)～8月17日(金)  
 \*14日を除く3日間は閲覧のみ可能
- 12月27日(木)及び平成3年1月5日(土)

## 平成3年1月初旬まで

次のように夜間開館停止を予定しています。

- |       |   |
|-------|---|
| 附属図書館 | 7月16日(月)～8月25日(土)<br>12月25日(火)～1月10日(木) |
| 医学部分館 | 8月13日(月)～8月18日(土)<br>12月25日(火)～1月10日(木) |

\*図書館内の案内・掲示に注意してください。

岐阜大学附属図書館報「寸胴」 創刊号 1990年6月30日

編集 委員長：大谷 勲 委員：尾崎浩巳、田中卓二、小川利彦、河田幸男、  
小林かず子、羽賀啓子

発行 岐阜大学附属図書館

501-11 岐阜市柳戸1番1 0582-30-1111